

令和 8 年度 安全衛生表彰 受賞者名簿

厚生労働大臣賞

表彰区分	表彰基準	事業場名	所 轄
優 良 賞	安 全 確 保 対 策	(株) 竹中工務店大阪本店 大阪中部地区 FM センター	天 満
		大阪中部地区 F M センターは、大阪市内を中心にビルのメンテナンス、リニューアル、耐震補強、設備更新、テナント入退去等の工事を直近上位組織として施工管理を行っている。 全ての工事において着工前打合せを協力会社を集めて実施し、作業の特性の把握及びリスクの洗い出しを行った。また、月間工程表に危険作業の期間と作業内容の明示、かつ、危険作業事前打ち合わせ予定日を記載し、内勤部門を含む関係者に周知することで、全ての関係者に危険作業の内容を把握させ、安全管理の強化を図った。 拠点を中心に、同時に多種多様な改修工事の現場で施工する F M センター特有の性質のため、事業主主体の職長会活動として、当センター内分科会との合同巡回、意見交換会、安全週間・衛生週間でのイベント等の活動を活性化させ、 I T ツール (Teams・direct) を所員及び協力会社で活用し、日々の安全管理及び作業指示をタイムリーに、かつ分かり易く情報の共有を行った。	
		うめきた 2 期共同企業体 ((株) 竹中工務店・(株) 大林組) (仮称) うめきた 2 期地区開発事業 北街区分譲棟 新築工事	天 満
		当工事は、積水ハウス (株) を代表企業とするうめきた 2 期開発事業者 J V 8 社を事業主とした関西を代表するプロジェクトであり、超高層免震タワーレジデンスを建設する工事である。 朝礼会場や会議室には作業所ルールや災害事例シートを掲示し、安全ルールに見える化、場内には 3・3・3 運動のシートを掲示し、ルールに見える化を図った。 作業所長方針や毎月の作業所長安全宣言を朝礼会場や休憩所に掲示し、作業所長の想いを伝達した。 熱中症対策期間においては、当物件が 46 F の超高層建物であることから、5 階おきに作業員の目に付きやすい場所に熱中症対策用品を常設し 作業員の体調が崩れた場合にすぐに処置できる仕組みを整えていた。場内自動販売機のスポーツドリンクやお茶を特別価格とし、定価よりも安く購入できる仕組みを作り、 作業員に自発的に水分補給をさせる体制を整えることで熱中症発症を未然に防いだ。	

表彰区分	表彰基準	事業場名	所 轄
優 良 賞	安 全 確 保 対 策	(株) 大林組 大阪本店 (仮称) 大阪市福島区福島 2 丁目プロジェクト 店社が推進する労働安全衛生マネジメントシステムに基づいて工事計画を立案し実施した。狭小地の施工環境条件を考慮して工事の進捗に合わせて危険性、有害性を特定し継続的にリスクアセスメントを行った。また、高齢者・未熟練者・外国人労働者へのリスクアセスメントを積極的に行った。 あいさつ運動による作業員への声掛けや場内に安全帯演練所を設けて作業開始前に全員で安全帯の 2 丁掛け演練を実施した。玉掛け作業従事者は周知会を定期的に開催し合図や復唱における取決めを再確認しオペレーターとの意思疎通の確認を行い、高所作業従事者には工具に落下防止対策を講じるとともに、せり上げ足場のクライミング前に都度、関係業者による足場清掃活動を実施するなど超高層建築現場における飛来落下災害に対する対策を徹底した。 各種 I C T や D X 技術を活用し、早期のリスク発見や関係者へのタイムリーな情報共有を行った。 熱中症防止対策を早期に立案し、熱中症対策室やクールステーションの場内設置、空調服・防暑垂れ・熱中症対策リストバンド『カナリア』着装の義務化、熱中症リスク判定 AI カメラ『カオカラ』の設置等、多数のリスクアセスメントを実施した。	西 野 田
		鹿島・高松共同企業体 (仮称) 大阪市淀川区十三東計画 東敷地新築工事 当工事は淀川区役所跡地に建設した複合タワーマンションであり、図書館、商業施設等を併設する地域再生の中核事業として進められている。 安全衛生管理体制は統括安全衛生責任者を中心として整備し、日常巡回や月次教育を継続することで、安全管理の基盤を確実に固めていた。死亡・重篤災害につながる作業は事前に洗い出し、確認証の運用や監視員の声掛けを組み合わせることで、現場全体の危険認識を高めた。また、高所作業についてはフルハーネス使用高さの明示や二丁掛ゲート、視認性の高い器具の使用により、注意力と安全行動を徹底した。 リスクアセスメントの取組としては、外国人技能者の増加を踏まえ、平易な日本語で編集した動画教材を活用し、“やさしいにほんご”によるコミュニケーション改善を図った。朝礼には曜日ごとのテーマを設け、司会進行を職長会が担うことで、協力会社を含めた全体参加型の場へと発展させていた。玉掛作業では、資格者をピンクヘルメットで識別し、無資格作業の防止とオペレーターの視認性向上を同時に実現した。 このほか、3DCG 災害動画の視聴、顔写真とプロフィールの掲示、立ち馬ルールに見える化、週次清掃、二丁掛訓練設備や VR 訓練の整備など、日々の行動から安全を習慣化する工夫を重ねていたタワークレーン遠隔操作「TawaRemo®」の導入により、オペレーターの疲労軽減と作業効率の向上を実現した。	淀 川

表彰区分	表彰基準	事業場名	所 轄
優 良 賞	安 全 確 保 対 策	大林組・ハンシン建設共同企業体 京都線・千里線淡路駅周辺連続立体交差工事（第3工区）に伴う土木工事 当工事現場は阪急電鉄の京都線と千里線の鉄道営業線と市街地との間の狭隘な箇所計画された駅を含む鉄道高架橋を構築する工事である。市街地に密接した作業環境より、騒音・振動・粉塵等の公共衛生に対して細心の注意を払いながら、歩行者や通行車両が非常に多い中で飛来落下災害等を絶対に起こさない、また営業線の運行に絶対に支障してはならないための、綿密な工事計画が事前に必要であり、多くの規制や様々な制約がある中で、施主、設計者、JV職員、協力会社、職長会が一体となって安全衛生管理活動を行い、全工期無事故・無災害を達成した。 墜落災害防止対策としては、現場朝礼広場に設置された安全帯演練所で作業員に、所長自らが毎朝『あいさつ運動』で作業員の体調を観察するとともに、全員参加での安全帯2丁掛け演練を実施して、新規業者の送り出し教育の成果等を確認した。ICTツール「デジタル野帳」を活用して巡回時の指摘事項に対して早期に共有を図り、タイムリーな是正対応により災害を防止することに加えて、速やかな情報共有による労働時間短縮と時間外労働の削減を積極的に取り組んだ。熱中症対策期間においては、作業員の中から熱中症が出ないように施設と運用の両方を充実させることに加えて、WBGT値を計測するだけでなく、熱中症対策リストバンド『カナリア』を用いて作業員に発信することで発症を未然に防止した。	淀 川
		（株）竹中工務店 大阪本店 小林製薬彩都新研究所新築工事 当工事は、小林製薬の開発・研究部門集約を目的とした研究所新築工事である。建築地周辺エリアは閑静な住宅地であり、小中学校に通う児童・生徒が多く、隣接する他社工事との工程連絡、工事車両誘導員配置調整、各自治会長様への工事予定配信など、全工期を通じて近隣住民の安全を最優先に配慮が必要な工事であった。 工事期間中の安全衛生活動については、「安心な研究所を安全に創る」という作業所スローガン、「働くみんなにおもてなしいつも謙虚にありがとう」という職長会スローガンを両軸として掲げ、元請・協力会社の隔てなく様々な課題に対して、活発に議論・活動を行うことで、声掛け・注意喚起をしやすい作業所風土を構築することに努めた。 熱中症対策期間中は多くの熱中症対策を積極的に取り入れるとともに、作業所長が「喰う、寝る、控える」ことの重要性を全作業員に意識させることで、工期中の2度の夏を熱中症0を達成した。 また、受動喫煙防止対策、過重労働対策、健康保持増進対策、快適職場の推進、女性活躍推進などにも積極的に取り組み、作業所で働く職員、作業員が心身ともに健康で働くことのできる環境を整備した。	

表彰区分	表彰基準	事業場名	所 轄
奨 励 賞	安全確保 対 策	(株) 竹中工務店 大阪本店 (仮称) 本町3丁目プロジェクト	大 阪 中 央
		当工事は、ビジネス街中心部の高さ 63.19m、深さ 9.5m の大規模建物新築工事である。敷地が大型道路に面し、平日の人通りが多いエリアでの施工となった。 統括安全衛生責任者、元方安全衛生管理者及び安全衛生推進者を選任して、安全衛生管理体制を構築し、安全責任者、衛生責任者、環境保全責任者、機械責任者を選任するとともに、元請と協力会社の安全当番が毎日の安全巡回を実施した。 協力会社から編成される職長会を結成し、『きれいな作業所で 良い建物を』をスローガンとして活動した。 職長会は2つの分科会（安全分科会、環境分科会）を設置し、週1回の巡回及び月1回の職長会全体会議を開き、自主的な安全衛生活動を促し、自らモラルをもってルールを守り、お互いの声掛け・注意喚起をしやすい作業所風土を構築した。 職長会活動として ICT ツール（direct）を活用し、場内各所の安全面、環境面の注意喚起を行い、I C T ツールを所員や職長も含めて積極的に活用し、日々の安全巡回で上がった指摘事項や是正報告、作業指示をタイムリーに、かつ分かりやすく共有できるよう努めた。	

表彰区分	氏 名	経 歴	所 轄
功 績 賞	中 村 佐 知 大	(公社) 大阪労働基準連合会理事 大阪西労働基準協会会長 (株式会社中山製鋼所 専務取締役)	大 阪 西
	野 口 清 志	(公社) 大阪労働基準連合会理事 茨木労働基準協会支部長 大阪労働局労災防止指導員 大阪労働局安全衛生専門委員 (ダイキン工業株式会社淀川製作所安全環境担当部長)	茨 木
	吉 田 伸 司	大阪住宅安全衛生協議会会長 (大和ハウス工業株式会社本社安全管理部部長)	局

大阪労働局長賞

表彰区分	表彰基準	事業場名	所 轄
優 良 賞	安 全 確 保 対 策	日本化学機械製造株式会社	淀 川
		毎年、代表取締役社長から安全衛生方針及び安全衛生目標が示され、『安全衛生最優先』のもと、「労働災害ゼロ」を目指して PDCA サイクルに基づく継続的な改善が行われている。年間安全衛生計画の策定・実施記録を作成し、安全衛生委員会で実施すべき内容を明確にし、さらにその進捗状況を見える化している。 労働安全衛生マネジメントシステムにおいては 12 月に 1 年の総括を安全衛生委員会にて行い、振り返った結果及び法改正の内容を次年度計画に反映している。その翌月に社長によりマネジメントシステムの全体の評価が行われている。 毎月 15 日を目安に安全パトロールを、20 日を目安に職場安全衛生委員会を実施している。安全パトロールは各月の重点実施事項を決め、本社だけでなく滋賀工場についても実施し、多角的な目で危険を摘みとる方法を採用している。安全衛生活動が特に優良であると認められる者に対して、毎年会社独自の安全衛生活動優良者表彰対象を安全衛生委員会で選任している。	
		株式会社ジェイテクトマシンシステム	東 大 阪
		「自分の身は自分で守る 仲間を守る環境づくり」を安全衛生活動の基本方針とし、リスクアセスメントを通じた危険源の特定とリスク低減を継続的に実施している。毎月の安全衛生委員会パトロールや、各職場に配置された「安全の番人」による不安全行動等の監視・指摘活動により、安全意識の向上を図っている。 また、「全社員を対象としたリスクアセスメントコンテスト」、「脚立・はしごの社内点検基準の策定」、「ボール盤を安全に使用するための改造」、「工場内防災カメラの設置」「制御盤転倒防止治具の開発」等、個別具体的な安全衛生対策に取り組んでいる。	
		大林・日本国土・前田特定建設工事共同企業体 一級河川 寝屋川 加納元町調節池築造工事 (R4 本體工)	東 大 阪
		当工事は、大阪府が総合治水対策として河道改修に加え、地下河川や流域調節池などの治水施設の整備を行うもので、本件工事は、東大阪市域および大東市域の浸水被害を低減するための雨水を一時的に貯留 (27,000m³) する流域調節池をシールド工法により築造するものである。 発注者、元請及び協力会社が一体となった安全衛生管理体制を構築し、工事進捗に応じて工法検討及びリスクアセスメントを実施し、その結果を施工計画書に反映し関係者間で共有した。日常的な各種安全パトロール、安全教育に加え、ATKY 活動 (指差し呼称を現場で行う KY)、作業手順書の見える化、ICT ツールや WEB カメラを活用した情報共有等のリスクマネジメントを実施した。さらに、粉じん・水質汚濁対策、緊急時対応体制整備、熱中症対策など作業環境改善にも積極的に取り組み、全工期無災害を達成した。	

奨 励 賞	安 全 確 保 対 策	株式会社大林組 大阪本店 堂島関電ビルリニューアル工事	天 満
		当工事は、築 50 年を超える堂島関電ビルについて、地下に稼働中の変電所を有するという制約条件の下、建物運営を継続しながら新築同等の性能確保を目指す全館リニューアル工事である。 工事着手前には工法検討とリスクアセスメントを協力会社と共同で実施し、ATKY 活動（指差し呼称を用いて行う現地 KY）や周知会により危険要因が見える化して共有した。日常的な安全パトロールや職長会活動に加え、デジタルサイネージや ICT ツールを活用した情報共有、墜落防止対策、熱中症対策、職員の健康確保にも配慮し、継続的かつ実効性の高い取組に努め、全工期を通じて無災害を達成した。	
		三同建設株式会社 曾根崎 2 丁目計画（梅田 OS ビル、大阪日興ビル地上解体工事）	天 満
		当工事は、曾根崎 2 丁目計画として梅田 OS ビル及び大阪日興ビルの地上解体工事を一体的に管理・施工するものである。繁華街であり、また交通量の多い立地条件下において、第三者災害防止が最重要課題であった。 作業所では OHSMS を運用し、危険作業事前打合せや RAKY 活動を軸としたリスクアセスメントを徹底し、工法検討会や職長会活動を通じて安全対策を継続的に見直を図った。解体工事においてはクライミングクレーンによる吊切り解体や粉じん・騒音・振動対策の強化などにより周辺環境への影響低減を図り、安全の見える化、墜落制止用器具の適正使用訓練、熱中症および外国人・高齢者対策、働き方改革への取組を総合的に推進し、全工期無災害を達成した。	

表彰区分	氏 名	経 歴	所 轄
功 績 賞	森 永 泰 弘	建災防大阪府支部 参与、安全指導者	局
安 全 衛 生 推 進 賞	平 井 司	（公社）大阪労働基準連合会大阪中央労働基準協会支部 副支部長・事務局長	大 阪 中 央
	上 總 一	建災防大阪府支部 大阪中央分会 安全指導者 （栗本建設工業株式会社 安全環境部 顧問）	大 阪 中 央
	堀 河 和 夫	建災防大阪府支部 大阪中央分会 安全指導者 （株式会社森組 安全・品質環境部 専任役）	大 阪 中 央
	岩 根 良 文	建災防大阪府支部 大阪中央分会 安全指導者 （株式会社藤木工務店 大阪本店工事部工務担当部長）	大 阪 中 央

安全衛生 推進賞	岡 本 智 子	(公社)大阪労働基準連合会天満労働基準協会支部 金属・機械器具業安全衛生推進会 (独)造幣局本局 総務課職員課主事)	天 満
	横 田 哲 男	建災防大阪府支部 大阪西分会 会計幹事・安全指導者 (西松建設株式会社 西日本支社安全環境部安全課 安全マイスター)	大 阪 西
	佃 浩 司	建災防大阪府支部 大阪西分会役員 幹事・表彰班長・ 安全指導者 (住友電設(株)電力本部 安全品質管理室主管)	大 阪 西
	宮 内 俊 昌	港湾貨物運送事業労働災害防止協会 大阪総支部 安全管理員	大 阪 西
	紅 谷 憲 一 郎	建災防大阪府支部 西野田分会 常任幹事・幹事・安全 指導者 (中央電設株式会社本店副本店長、安全・品質管理部長)	西 野 田
	高 山 和 幸	建災防大阪府支部西野田分会 常任幹事・安全指導者 (株式会社カシワバラ・コーポレーション 人事部キャ リヤ開発課講師リーダー)	西 野 田
	植 田 定 義	建災防大阪府支部 東大阪分会 安全指導者 (株式会社三栄建設 安全品質管理部 部長)	東 大 阪